

第1回明日香村小委員会における各委員からの指摘事項等

1. 全般

- ・日本の社会資本というと、土木整備をイメージしがちだが、ローマ時代の人々は心身の健康のためや労働意欲を高めるために、社会資本を高めていた。そのような背景を参考に、社会資本の整備に関しても改めて認識を深めてもらいたい。
- ・歴史まちづくりにおいて、「風致」や「情緒」という単語を用いることはあるが、「逍遙」という単語は出てこない。言葉の整理が必要。

2. 歴史展示の推進に関すること

- ・「国家基盤が形成された明日香の歴史を体感できる歴史展示の推進」は、古都法・明日香法における「歴史的風土の保存」という法律概念の範疇を越えているのではないか。
- ・本委員会の中で歴史の本質の発見・保存というところまで議論するのか、検討体制も含めて方向性を示してほしい。
- ・保守的な歴史観と客観的な歴史観をどう使い分けるのかというセンスを持ってほしい。
- ・東アジアを中心とした世界との交流してきた明日香の特長について、解明が必要であるとともに価値を改めて評価していきたい。
- ・文化財の発掘については、進捗しているものの、未だ3割程度に留まっているので、引き続き継続してもらいたい。
- ・明日香村全体をまるごと博物館として、入れ物のないフィールドミュージアムにするという考え方のもと進めており、歴史展示という概念を出来るだけ強くテーマを持った上で議論したい。
- ・インターナショナルな現代を踏まえ、他民族がここに集まっていたということはどういうことか、価値を考えた方がよい。
- ・歴史展示の推進は前回の基本方針にも載っており、研究・発掘の成果等について整理した上で、国際的な視点も踏まえて展開していくとよい。
- ・国・県・明日香村三者で連携して発掘調査を進めること。
- ・高松塚古墳の修復後の公開について、まるごと博物館等と連携して、フィールドを巡ることのできる整備が出来ると良い。その際、国際的な視点を持った拠点整備もあると良いだろう。ぜひ、文化庁と一緒にやってもらいたい。
- ・文化財は公共財であるから、研究所が公表・公開を積極的に行うようにしてもらいたい。
- ・復元だけでなく、物見台のようなものの整備についても検討してもらえると有難い。

- ・飛鳥大仏等の国宝や重要文化財なども検討の対象として取り上げてもらいたい。
- ・農村景観として、奥飛鳥の重要文化的景観についても触れてもらいたい。

3. 農業及び自然的環境の保全に関すること

- ・山林は、戦後の大造林した時代の人工林であり、針葉樹林帯が中心。樹種転換までは手が回らず、万葉の時代の林相とは違うことや竹林が繁茂している現状について指摘があるものの、対応が難しい。
- ・あすかるびーの観光農園やツルムラサキ・ターサイ等の商品化を進めているところだが、流通させるほどの栽培量も品質も確保が難しいほか、販路拡大もなかなか進んでいない。
- ・獣害対策の一環として、ジビエを活用する6次産業化や、明日香ブランドの発展も必要では。
- ・専門家の意見も伺いながら、里山保全に係る先進的な取組等を進めてもらいたい。
- ・これまでの取組を踏まえ、明日香が日本の中での先行事例となるべきである。
- ・山や川、農地などを個別にみるだけでなく、地域のなかでまとめることで価値を上げていくことが必要ではないか。

4. 定住促進に関すること

- ・土地法制も単に地面の仕分けだけでなく、そこにいかに人が長く住めるのかということも含めて考えている必要がある。
- ・過疎地域に指定されたことに係る対応は、優先的可及的課題である。
- ・移住施策の一方で、地元住民が明日香人として誇りを持てるような施策検討が必要である。